

掛川市立総合病院・看護部教育委員会

nurse cap ナースキャップ

教育だより
No.37

平成15年9月20日

講師「西元勝子先生」
新しい言葉・共同業務



固定チーム ナーシング 講演会

H15.6.24

4 東 市川ちづ子

当院では、責任ある質の高い継続看護を”を目的に問題解決の道具として固定チームナーシングが平成12年度に導入されました。この時も西元勝子先生をお招きしていますが、三年経過した今年は生涯教育研修で再度固定チームナーシングを更に充実させたいと企画しました。講演は、先生が小児病棟で実践しながら開発してきただけあって非常に説得力のある内容でした。そして当院小児病棟の3東には、はげましのエールまでが飛び出しましたね。今回新しく共同業務という言葉が出てきましたので紹介します。①ナース、スタッフで共同して行う業務のこと、②ケアの水準を保ちミスを防止するため手順基準をきめる事、③分担して一括して実施した方が無駄がなくミスのない業務ができる、④対象へのサービステキに下にならないものとする、⑤機能別業務とはいわれないなどです。

詳しい内容については、是非参加した方に聞いてみて下さい。

基礎Ⅱ

in

御前崎荘

H15.5.15 ~ 16



3東 佐々木 鮎美

今回、御前崎での一泊二日の研修を終え、自分にとってプラスになる部分が多々ありました。研修では、グループワークで二年目としての役割を話し合ったり病棟での自分を絵に描いて表現する等、様々な事を行いました。また、その研修を通して同期の友人の考えや悩みを話し合い、色々な意見を聞く事ができました。病棟に勤務するようになって一年以上が経過し、一年間をふり返ってみると、ただひたすらがんばりすぎた一年間だったと思います。せっかくの休日も、仕事の事ばかり考えてしまい悩んでしまう事が多く、立ち止まって自分を振り返り見つめ直す余裕もなかった様に思います。しかし、今回の研修に参加し、現場を離れゆったりとした時間の中で様々な事

を考え、自分をみつめ直し、また話し合う事で、リフレッシュでき、二年目としての役割を自覚する事ができたと思います。そして何よりも、今後は二年生として、またがんばっていきましょうという意欲を新たに持つ事ができました。この経験を大切になれ後も日々、患者さんの力になれる看護師を目指しがんばっていきたいと思います。



宿・泊・研・修



基礎Ⅲ

in

三ヶ日
青年の家

H15.7.17 ~ 18



5東 伊藤 弥生

リーダーシップを發揮しよう」という目標で、今回三ヶ日青年の家へ1泊2日の研修に行ってきました。梅雨の中休みのカンカン照りの中、天竜浜名湖線に揺られ、汗だくになりやっと青年の家へ着いたと思ったらすぐにサイクリングへ。久しぶりの自転車に不安でしたが、浜名湖のすばらしい眺めを満喫できました。休む間もなくウォークラリーへ。2チームに別れての行動でしたが、私たちのグループは1時間程迷い続け、結局主任さんの車に途中まで乗せていってもらいました。暑い日さしの中、顔を真っ赤にさせながらなんとかゴールへたどり着く事ができました。

今回の研修で私のリーダーに対する考えが変わりました。以前はリーダーは全てを決め、仕切り、メンバーはそれに従うものだと考えていました。私自身今まで、進んでリーダーになった事はなく、どちらかというと逃げていた事が多かったと思います。しかし、今回の研修で、リーダーとはメンバーの意見を聞き、まとめていくのであって、決して意見を押しつけるのではないとわかりました。今回の研修で学んだ事を生かして、良いリーダーシップがとれる様がんばっていきたいです。



H15
6/8

接 遇

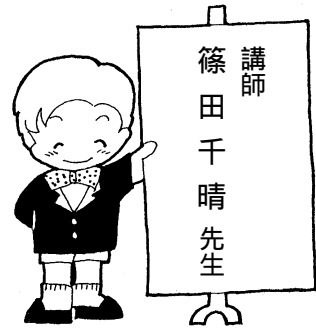
3西 鴨川 美子



電話対応の仕方

去る6月8日、接遇研修に参加しました。なんでもいいやと、軽い気持ちで参加したのですが、なかなかどうして、たかが接遇、されど接遇でした。

最初の6秒でその人の印象は決定づけられるそうですが、果たして自分はどうか？ 化粧はしないし、滅多に美容院は行かない。とりあえず、マスクで顔は隠して、その他白衣や靴の清潔、臭いへの配慮、姿勢、表情でカバーしようと思つて決めた。



今回の研修で私にとって最も心に残ったのは「おしゃれ」と「身だしなみ」の違いについてでした。職場では、自分がよければどんな髪型、服装でもよいというわけではない。おしゃれは自分中心、身だしなみは相手を中心。規則に縛られている患者の立場に立ち、相手に注文することが多い分、こちらもそれ相応の努力を要する」と言われ、「うん、そうだよなあ」と納得でき、これまでなんとなく疑問に思っていた事柄を解消することができました。

掛川東高等学校校衛生看護科実習終了

昭和四十一年より千四百八名の卒業生を送り出した掛川東高・衛生看護科。三十六期生を最後に、実習を終了しました。当院では、九十名の卒業生が働いています。

バレーボール
県大会出場おめでとう!!



苦しくたって...
コートの中ではへいきなの...

最後の実習



編集後記

梅雨が明けたのか夏になったのかよくわからないうちにもう夜の庭ではコオロギが鳴き始めました。文明が発達し、エアコンで快適な生活ができるとはいえ、やはり自然の天気を肌で感じたいと思うのです。しかし、今年の夏はどこに行ってしまったのか？汗をダラダラ流して、かき氷を気分よく食べ、稲が、すっかり実るには暑い夏が欲しかったのに!!

久保田

私の参加した研修

エルダー研修

2東 柴原 悠子

今回の研修は、座学以外の内容が多く、リラククスして楽しみながら参加することができた。その中で一番の内容は、1対7人のコミュニケーション訓練だ。ここでは、「こんにちは」「一言を、相手に伝えることの難しさを痛感した。」「口先だけ、声が大きいだけ、心がかもっていない。」など、講師から、恥ずかしい指摘をたくさん受けた。「ナースが、こんなに心のもっていない会話をするなんて」



H15.5.31
心をこめて…

という言葉に、シヨックを覚えた。毎日、患者様に対して、口先だけでやりすごしているのではないかと、鋭くきびしい指摘もあり私は自問自答した。心を込めて会話をしているかと聞かれれば、確かに自信を持って、「はい」とは言えない気がする。忙しい時、私の頭の中は、目前で話している患者様の会話の内容よりも、別の内容が浮かんでしまうことがある。そんな時は、空返事をしているのではないか、自分が感じたように、患者様にも中身の薄い対話をしているのではないだろうか、私は1対7人の対話訓練で、日頃の自分の行動を振り返り、気づきや、反省という



講師
渡辺佳洋 先生

機会が得られた。心を込めて語りかけないと、相手の心には届かないし、また相手を理解したいと思えば、真剣に相手の会話を傾聴しなければならぬ。あたりまえだが、とても大切な事を考えさせてもらった研修となった。自分が、聞き手となった時、また語り手となった時の気持ちをお忘れず、まごころを持って、患者様と対話できるナースでありたいと思う。

「心で話す。」という姿勢を、いつまでも持ち続けていけるような、そんな自分になりたいと思う。



基礎I研修

手術室 牧 亜沙美

今回、エルダーさんの企画によるリフレッシュ研修ということで、ボーリングとグループワークといった内容の研修を行いました。私は手術室に配属されてから、同期の人となかなか会う機会もなく、

こういった研修の場ではかあって話をするがありませんでした。ボーリングというゲームを通して、今まであまり知らなかった人と一緒にみんなで盛り上がりつつ楽しんでることができました。また、グループワークでは、今までの失敗談や不安に思っていることと、先輩達に聞いてみたいことなどを話し合いました。病棟が違ったり、

H15.7.15
掛川ポウルで



それぞれ科も違ってはいましたが、不安に思っていること、気になっはいるけど聞けずにいることなど、似たようなことを考えているのだということがわかり、私だけではないのだと思いました。「リフレッシュして日頃の不安や心配を共有しよう」という目標は達成できました。ありがとうございました。